

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、介護理念を唱和し、意識づけをしている。介護理念に基づきながら、入居者様の個々のニーズに合わせるよう努めている。	毎朝、法人の理念「MSC介護理念」を唱和している。ホーム内にも掲示されており常に確認出来るようになっている。利用契約時に利用者や家族にも説明し理解を得るようにしている。毎年、ホームとしての目標を掲げ、朝礼などで確認しケアに取り組んでいる。理念にそぐわない言動などが職員に見受けられた時には管理者、リーダー、本人の三者面談を行い指導するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、行事参加や挨拶運動、交通安全運動に参加していたが、コロナ禍で出来なかった。日々の生活の中で入居者様も地域の一員であることを意識しながら地域の方へと手作り品やぞうきんを作成し、お渡しした。	自治会費を納め地域の一員となっている。例年、地区の総会にも参加しているが今年度は新型コロナウイルスの影響により地区役員のみで開かれたという。地区の一斉清掃にも職員が参加したり、小学校の「あいさつ運動」への参加、ボランティアの受け入れなども今年度は中止となっている。今年度はホームの秋祭りもホームのみで行われた。「認知症サポーター養成講座」の再開についても地元のグループホームや地域包括支援センターと検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のグループホーム連絡会に加入し地域の方々に役立てる内容を検討して貢献活動に繋げている。 コロナ禍で認知症サポーター養成講座の開催はできなかったが、今後の開催を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度開催し参加者からの意見や要望を取り入れ、その結果を次回の会議に報告しサービスの向上に努めている。	利用者、家族代表、区長、民生委員、あんしん(介護)相談員、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、交番駐在員、ホーム関係者参加の下、昨年度から今年度にかけては新型コロナの影響により1月、7月、9月、11月のみ開催となり、活動報告、利用状況報告などを行い意見を頂いた。今年の1月は書面での開催となり、意見等を返信していただくようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場を活用しながら、担当者に事業所の実情や情報共有を行っている。	地域包括支援センター、高齢者活躍支援課とは日頃から連絡を取り合っている。市で開かれた新型コロナ対策についての研修にも参加した。介護認定調査時には利用者とは距離を取って様子を見ていただき情報の提供をしている。市から派遣のあんしん(介護)相談員の来訪はコロナの影響により中止となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に代わる介護方法を模索し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会として管理者とリーダー2人の3人で3ヶ月に1回開いている。年2回、身体拘束についての内部研修も行き、拘束のないケアに取り組んでおり、自己チェック表で確認もしている。外出傾向のある方もいるが近くを散歩する等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の資料を職員全員に配布し、事業所内で研修を行い虐待防止に努めている。 虐待廃止に向けた強化週間などを設け毎朝読み上げて意識を高めている。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修など通して活用できるように意識をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご理解が得られるよう契約書に沿って説明をし、同意を得た上で押印をいただいている。改定時には再度契約の巻き直しを行ったり、覚書を作成し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、フリーダイヤルでの相談窓口を設置している。また、事業よりご家族にアンケートを実施し、ご要望が反映されるよう努めている。	三分の一の位の方が意見や要望を伝えることが出来る。意思疎通が困難な利用者には選択肢を用意したり日頃の様子などで汲み取るようにしている。家族には新型コロナウイルスが一時的に落ち着いた時に別室で15分ほどの面会をして頂いたが、今は窓越し面会としている。そうした中、残念であるが県外在住の家族には中止をしていただいている。例年実施している6月の家族会も中止とした。法人の長野エリア独自に年3回家族アンケートを行い、意見を頂きケアに活かしている。担当職員から毎月写真入りで「日常の様子」「食事について」「体調面」「入浴回数」「予定一覧」などを記載したお便りと、3ヶ月に1回転倒予防・認知機能改善のためのリハビリ「ふまねっと」の報告を家族に送り、現況をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議、スタッフ個別面談を通じて意見や提案を取り入れている。	月1回開かれる全体会議では業務上の連絡事項を報告し、内部研修も行っている。ユニット会議では利用者に関する意見交換などを行っている。人事考課制度があり階層別評価による評価が行われ、また、個人目標についての自己評価も行い、更に、ホーム長・リーダーとの個人面談も実施し、働きやすい環境づくりとケアの向上に活かしている。法人からの職員アンケート調査が行われ、職員のストレスチェックも実施され、心身の健康への配慮もされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜間休憩取得時間の把握を始め、勤務状況や労働時間の把握に努め、実績に反映している。スタッフの表彰制度などがあり、やりがいに繋がる環境を整えている。努力や実績を公平に評価し正社員の登用や資格支援制度等キャリアパス制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に資格取得支援制度や、資格取得後に社内で活かせる環境づくりに努めている。社内研修の取り組みのほか、社外研修を受ける機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム連絡会に加入し、勉強会や同業他社との情報を共有を行う事を推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況の把握の努めている。また、ご本人様が不安に感じていることや困っていることについてホーム内で共有し支援方法を考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のこれまでの介護生活を伺い、ご家族様のニーズに応えるためにホームとしてどのような支援が出来るかを話しあっている。また、こまめに連絡を取り近況報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極める為にも、担当のケアマネとの連携を図りながら、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側される側という意識を持たずに、日々の生活の中で敬意を常に持ち、お互いが協働しながら生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態変化の連絡の他、新たな発見や達成できたことなどをお便りだけでなく電話でも報告し、ご家族様と入居者様のより良い関係が作れるようにしている。また、ご家族にしか出来ない支援に関しては都度協力を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ行ったり、馴染みの方に電話をしたりなど関係が途切れないよう努めている。	新型コロナの影響により面会もままならない中、ホームの携帯電話で家族へ電話する方がおり、関係継続への支援がされている。年賀はがきや手紙、利用者手作りの手芸品などを家族の元へ送り、喜ばれている。通常であれば、移動図書館での本の借り入れ、釣りなど、在宅時からの趣味の希望もあるが、現在、中止の状態となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士で過ごせるように努めている。役割や活動などお互いが気持ちよく行えるようにスタッフが間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの生活が損なわれないように生活環境や支援内容などを情報提供し、柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握できるように努め、意思疎通が困難な方にはご家族様から情報を得るようにしている。	日々利用者に関わっている中で希望や意向を汲み取っている。利用者のつぶやき等も記録に残し職員間で共有し、ケアプランにも反映し希望に沿ったケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの出番づくりとして役割分担があり、張り合いのある生き生きとした生活に繋がっている。「毎日りんごが食べたい」「お酒を飲みたい」「タバコを吸いたい」などの希望にも応じ自由にしていただいている。利用者が作った手芸作品も家族の面会時やケアマネジャーの訪問時などに差し上げ喜ばれている。また、ホームの畑で利用者と一緒に野菜づくりをし、施肥や種まき、苗植えなど、季節に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様に話を聞き、生活歴や馴染みの暮らしを把握できるように努めている。ご家族様に直接記入して頂くシートも活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解すると共に、表情や言動から心身の状態把握に努めている。出来る事に着目しスタッフ間での情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の係わりの中で、思いや意見を聞き反映している。アセスメントを含めスタッフ間で意見交換やカンファレンスを行なっている。	職員は1~2名の利用者を担当しており、家族への毎月のお便りの作成、居室の管理を行っている。アイコンにより24時間シートへ入力し、担当者会議においてモニタリングを行い、家族にも希望を聞き、計画作成担当者が3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。状態の変化により随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個別ファイルを活用し水分量、食事、バイタルなど状況を記入し確認できるように努めている。状態変化やご本人様の言葉、エピソードを記録しスタッフ間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族の状況に応じて通院や認定更新手続きなど必要な支援を柔軟に対応している。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者の生活に広がりを持っていただくため地域との関わりを大切にしている。運営推進会議等を通じて意見交換できる場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様や、ご家族様が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院はご家族の希望に応じて対応している。スタッフが付き添いで行く場合には、ご家族様に受診前、受診後の報告を行なっている。	利用契約時に協力医があることを説明し希望により受診できるよう支援している。現在、全員が協力医による月1回の往診対応となっている。また、協力医療機関の訪問看護ステーションから看護師が週1回来訪し利用者の健康管理を行い、主治医との連携も取られている。歯科医については必要に応じて往診と受診が行われている。月1回協力歯科医師が来訪し、予防衛生としての口腔ケア指導が直接行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との契約に基づき、健康管理、医療面での相談や指示を頂いている。また、主治医との連携を図りながら対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人様の情報提供を行い、ご家族様と密に連絡を取りながら入院中の状態把握、実際に病院に赴いての状況把握、退院前のカンファレンスの実施に努め、退院後の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応にかかる指針をご説明し同意をいただいている。また、その時の事業所での対応力を見極めることを意識している。	「重度化した場合の対応にかかる指針」があり、利用契約時に説明し同意を頂いている。重度化した時には医師からの説明を基に家族の希望を確認しながら、看護師、ホーム関係者で話し合いを行い、出来る限り希望に沿えるよう支援している。ホームとして今までに2名の看取りが行われており、痰の吸引が必要となり、家族が病院で吸引の指導を受け、その家族がホームに来訪したり看護師と連携し看取りとなったケースがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時及び、急変対応のマニュアルを作成している。また、避難訓練時に消防署の方から指導を頂いている。AEDの導入に伴い使用方法を定期的に学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日防火用自主点検を行い、防火意識を高め、防火用自主点検シートに記録している。消防署にもご協力を頂き年2回(日中・夜間想定)の避難訓練を行なっている。	年2回、春と秋、今年度は消防署の立会いはなかったものの自主防災訓練として通報訓練、夜間想定での避難訓練を行った。1年半前の台風19号では停電を経験し、法人の市内の他のホームと連携し入浴をお願いしたり、近所から野菜や果物などの食料品の差し入れを頂いたという。水害を心配し自衛隊からの問い合わせ・連絡もあった。ホームでは食料品、介護用品、ガスコンロ、石油ストーブなど備蓄されていたが、これを契機に更に備蓄についても見直し充実させている。自家発電機についても常時用意することを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの気持ちを大切に、プライバシーの確保と個人情報の取り扱いには十分に配慮している。ご家族には個人情報使用同意書を頂いています。入居者様への声掛けは常に選択ができるような声掛けを心掛けている。	年1回プライバシー保護の研修を行っており、声掛けや言葉遣いについては馴れ馴れしくなく人生の先輩として敬意を込めたものになるよう配慮に努めている。利用契約時に名前の呼び方など、希望をお聞きしている。ホームとして基本的には苗字に「さん」を付けてお呼びしているが、同じ方がいた場合には名前に「さん」を付けてお呼びすることもある。男性利用者と男性職員がいるため、トイレ介助や入浴介助は利用者に抑え気味のトーンで声がけし、希望に沿って支援するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や好きな事が日常的に出来るように働きかけている。自己決定が困難な方には、表情を読み取ったり、行動パターンを理解したり、ご家族様にお聞きしたりして思いの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にご入居者様のペースや体調に合わせながら選択肢があるように支援している。好みの把握やその時どう過ごしたいか確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせ支援している。理美容院へは入居者様の希望の場所へ行けるように支援している。また、地域的美容師がホームへ来て理髪できる体制をとっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に畑で栽培した野菜をメニューに入れるようにしている。行事食を取り入れ季節を感じて頂いたり、入居者様とは一緒に調理している。献立の掲示はもちろん食事メニューの説明なども加え、美味しく召し上がっていただけるようにしている。	利用者のうち、自力で摂取できる方が三分の二強で、一部介助の方と全介助の方がそれぞれ数名ずつとなっている。食事形態も刻み食の方が数名、ミキサー食とトロミ食の方がそれぞれ若干名ずつ、三分の二の方は常食となっている。お茶をゼリー状にしている方もいるが、一人ひとりに合わせ水分、食事を提供し栄養がしっかりと摂れるよう支援している。献立には法人の栄養士がカロリー計算したレシピが付き、朝食は湯せんで提供し、昼食と夕食は法人の、関連会社の調理専門職員2名が交替で作っている。利用者も役割分担をする中で力量に合わせ積極的に参加しており、下準備から下膳まで一緒に行っている。おやつとしておやき、五平餅づくりなどが行われている。また、畑で収穫した野菜も漬け物や通常の食事として調理され食卓に彩を添えている。新型コロナの影響により外食ができないため、お寿司のテイクアウトなどで気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量を確認し、栄養バランス、水分量が取れるように支援している。食事制限やアレルギーがある方には物足りなさを感じないように、代替え食材を使い工夫して提供している。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせて、声掛け、支援を行っている。口腔内の異常があったとき及び予防のために、連携先の歯科医に往診していただけるような体制を確保している。毎月、書面にて指導いただき、スタッフが回覧し実践できるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら身体機能に応じトイレで排泄ができるように支援している。必要以上の排泄用品の使用が無いが常に話し合い、状況に合わせて対応をしている。	定時での誘導や様子を見ながら利用者に合わせて、出来る限りトイレで排泄できるように声掛けし支援している。通常、車いすを使用している方でもトイレでの排泄のほうがか楽にできる場合もあり、排泄記録で確認し一人ひとりに合った支援をしている。現在、ポータブルを使用する方はいない。法人で掲げている4つの基本ケア、水分(一日1,500cc)、栄養(食事)、運動、排泄(排便)により下剤を使わない支援に徹しており、排泄介護用品の費用削減にも繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保。軽運動や散歩など個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様に確認し希望の曜日や時間に入って頂いている。また、入浴の楽しみのひとつとして、好きな入浴剤を選んで頂いている。意思疎通が困難な入居者様に対しては、生活リズムに配慮したうえで、入浴時間を決めている。	入浴については自立、一部介助、全介助等、利用者一人ひとりの力量に合わせて職員二人で対応することもあり、快適に入浴できるように支援している。自立の方についても5分から10分間隔で見守りの声掛けをしている。基本的に週2回の入浴としているが、希望で3回の方もおり、畑仕事の後の入浴やシャワー等の希望にも応じ支援している。気の合った利用者同士で2人で入られる方もいる。「菖蒲湯」「ゆず湯」などの季節感も大切に実施しており、足湯を希望する方にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。寝付けなときにはお茶などを飲みながら会話をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人のファイルに綴りスタッフが把握できるようにしている。服薬前には名前、日付を声に出して確認し、確実に服用して頂けたかの確認をしている。朝礼時にも、マニュアルの確認を行い意識を高めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの力を発揮できるように、お願いできそうな仕事を行っていただき感謝の言葉を伝えるようにしている。		

愛の家グループホーム豊野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習慣や楽しみに合わせ、買い物、外食、季節行事に外出している。ご本人様にしか分からない場所などには、ご家族様にもご協力して頂きながら外出支援させて頂いている。	外出時、自力歩行の方が三分の二弱、シルバーカー使用の方と車いす使用の方がそれぞれ数名ずつとなっている。新型コロナウイルスの影響により外出が自粛となっているため、天気の良い日にはテラスで外気に触れたり、ホームの周りを散歩したりしている。これから陽気もよくなるので花見など、車の中も密にならないよう工夫しながらドライブなどを楽しめるように検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご本人様が安心できるのであれば小額でも所持金を持って頂けるよう家族と相談し所持していただき、いつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自由に使用して頂けるようにしている。年賀状は全ご入居者様が出し、ご家族様から喜びの声も聞かれ、ホームにも個人宛で郵送されてきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾り付けを一緒に考え行って頂き、自分が住む家だという意識を高めて頂いている。また、入居者様の作品などを展示することにより、達成感を感じて頂けるようにしている。	ホームの周りに畑があり、利用者が丹精込めて作られた冬野菜が植えられていた。玄関の椅子には利用者の手作りの座布団が置かれ温かさが感じられる。職員の顔写真も掲示されており、名前が分かることで家族も声が掛けやすいようになっている。二つのユニットともにリビングは南向きで広く、また、陽が良く差し明るく、お茶を楽しめるテラスもある。各ユニットのリビングには日々の利用者の様子の写真が掲げられ、色々な手芸の作品を作ったりして楽しく過ごされていることが窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファの配置に配慮し落ち着けるスペースづくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新しい物ではなく、ご本人様が長年使ってきた馴染みのある物を持って来て頂き、今までの生活に近い環境で生活していただけるようにしている。	居室の入り口には表札が掲げられ、馴染みの筆筒、椅子、テーブル、テレビなどが自由に持ち込まれ、自宅のように居心地よく過ごせるように工夫がされている。壁には家族の写真が貼られ、趣味の作品などにも囲まれ日々楽しく過ごされている様子を垣間見ることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどに張り紙をして、場所が分かりやすいように目印を付けている。また、手すりやスロープを取り付け、安全に自立した生活が送れるようにしている。		